

事業名 児童期家庭教育わくわく学級「目からウロコの子育て術」

趣 旨 家庭教育の重要性や児童期の心と身体の発達を学び、親子のコミュニケーションを深める。また、不安や悩みを共有することによって、自分自身を見つめ直す機会とする。

実施主体 新潟市教育委員会 横越地区公民館

参加対象 小学生の保護者および関心のある方

参加者数 26人(延べ104人)

回数 5回 **日数** 5日 **時間** 10時間

場所 新潟市横越地区公民館

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	11月6日(火) 10:00~12:00	子どもの本音・親の本音 ～イマドキの小学生って!～	博進堂 居城 葛明
	内容・方法	○オリエンテーション ○導入ゲーム ○自己紹介&本音トーク「子どものことで気になること」「興味・関心のあること」	
2	11月15日(木) 10:00~12:00	子どもの心 親知らず ～いのちって誰のもの?～	新潟青陵大学大学院 教授 碓井 真史
	内容・方法	○前回に出た「気になること」「興味・関心のあること」について一問一答 ○グループで情報交換 ○講義「命のつながりについて」	
3	11月20日(火) 10:00~12:00	子どもの話を聴くコツ ～受け止めていますか 子どもの声～	チャイルドラインにいがた 代表 小林 富貴子
	内容・方法	○キャッチボールで親子の会話をチェック ○子育てを振り返って(二人一組でワーク) ○一方通行にならないコミュニケーションスキル	
4	12月4日(火) 10:00~12:00	おとなのワークショップ ～私たちおとなにできること～	NPO法人子ども人権ネット CAPにいがた
	内容・方法	○自己紹介&子どもの良いところ ○小学生プログラム体験 ○話を聴くこと	
5	12月11日(火) 10:00~12:00	小学生の親を楽しもう! ～わくわく子育てのススメ～	博進堂 居城 葛明
	内容・方法	○団欒ゲーム ○ビジョンづくりゲーム「わが子の未来像」 ○講和「天職」 ○講座全体の振り返り	

成 果

- ・ 募集定員を超える申し込みがあり、児童期の子育てに関する講座の必要性を感じた。なるべく多くの参加体験型学習を取り入れ様々な視点からの話をきくことで、参加者の視野が広がり積極的参加へと繋げることが出来、有意義であった。また、参加者同士で不安や悩みを共有したことで安心感等が生まれ、自分自身の子育てについて見直す良い機会となった。

課 題

- ・ 公民館主体の児童期家庭教育学級は初年度であり、今後どう継続していくかが課題である。小学校と連携し、ニーズに合わせた講座構成が必要。

問合せ先 新潟市横越地区公民館(担当:天尾貴子) TEL:025-385-2043

事業名 **家庭教育講演会**

趣 旨 幼児の子育てを学ぶ

実施主体 新津地区公民館

参加対象 子育て中の親

参加者数 123人

回 数 1回 日 数 1日 時 間 2時間

場 所 新津健康センター

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	11月12日(月) 10:00~12:00	子どもの理解とその対応 ～もっと子育てを楽しむために～	新潟青陵大学教授 押木 泉
	内容・方法	わかりやすいようにプロジェクターとスクリーンを使った。 リラックスして聴けるように時々音楽を交えた。 安心して参加できるように子どもを預かる保育ルームを設けた。	

成 果

- ・ 問題行動のサインを見逃さない子ども理解のポイント、親や家族のあり方、子どもとの関係で大切なことなど、要点をとらえた適切なアドバイスを得ることができた。
- ・ 各幼稚園を通して募集したため、多くの参加者が得られた。

課 題

- ・ 須戸地区にも参加を呼びかけ、秋葉区全体の講演会にしたい。

問合せ先 新津地区公民館(担当:風岡) TEL: 0250-22-9666

事業名 **家庭教育振興事業**
「幼児期の親と子のコミュニケーション講座」

趣 旨 子どもとのコミュニケーションを深めるために、どうしたらいいのか、何が有効か。また、子育て中の悩みや不安について講師からアドバイスをしてもらう。

実施主体 新潟市教育委員会西川地区公民館

参加対象 幼児期の子どもを持つ親

参加者数 16名（定員30名）

回 数 3回 日 数 3日 時 間 2時間（延べ6時間）

場 所 西川地区公民館（西川学習館）

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	10月13日（土） 10:00～12:00	ちやいといっしょに子育てトーク	ちやい文々（子育てエッセイスト、イラストレーター）
	内容・方法	子育て中の母親の「悩み・心配事」、「コミュニケーションのとりかた」についてワークショップ形式で進行	
2	11月10日（土） 10:00～12:00	絵本で育むコミュニケーション	錦恵美子さん（絵本研究家）
	内容・方法	子どもとのコミュニケーションのツールのひとつ「絵本」について <ul style="list-style-type: none"> 過去に運営していた家庭文庫のはなし 絵本の持つ力 絵本の選び方等 	
3	11月24日（土） 10:00～12:00	子育てが楽しくなる！子育てストレス・ケア	水科江利子さん（生涯学習開発財団認定コーチ）
	内容・方法	子どもとのコミュニケーションの取り方について <ul style="list-style-type: none"> 2人1組になってのコミュニケーションの取り方実践 子どもは「認める」ことを待っている 脳には「否定語」がない 「I（アイ）メッセージ」について 「支度や歯磨きなど、いやがることをやらせるためには」など具体的な事例についての話 等子育てのストレス解消方法	

成 果 ・ 幼児期の子どもを持つ親同士が「悩み・不安」を話し合い、「解決策は見いだせなくても聞いてもらえるだけでも多少の解消になった」との感想や、「これからもこのような講座をぜひ継続してください」との感想から受講者からの高評価をいただいたのではないと思う。

課 題 ・ 参加者が定員（30名）に達しなかったことについては、広報不足や広報方法を検討しなければならない。

問合せ先 新潟市教育委員会西川地区公民館（担当：堀井）TEL：0256-88-2334

事業名 **家庭教育講演会**

趣 旨 子どもが健やかに成長するために、家庭を大切にする社会を目指して、家庭教育の重要性と父親の積極的家庭教育参加を促し、家庭教育支援の充実を図る。

実施主体 三条市教育委員会

共 催 三条市PTA連合会

参加対象 小・中学生を持つ保護者、または家庭教育に興味のある方

参加者数 174名

回 数 1回 日 数 1日 時 間 2時間

場 所 三条市中央公民館

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	12月12日（水） 午後7時～9時	『学校を知り、そして連携しよう』 子どものために手をつなぐ ～ 学校への“イチャモン（無理難題要求）” のウラにあるもの ～	大阪大学大学院教授 小野田 正利
	内容 ・ 方法	近年の「学校への無理難題要求の急増」を緊急の課題と捉え、その実態把握とともに打開策の検討をしている講師による、学校・教職員・保護者の自己反省や励ましにつながる講演会	

成 果 ・ アンケートの結果によると、実際にあった話を交えながら、わかりやすい言葉と愉快かつエネルギッシュな講演に感動した参加者が多く、わかっているようでわかっていないこと、理解しているようで理解できていないことなど、今まで聞いたことのない内容で学校の先生方の苦労がわかったとの保護者も多かった。
子どものよりよい成長の為には、教職員と保護者がお互いに要望や批判をしたりする“敵”の関係ではなく、お互いに“手をたずさえる”関係が重要であり、子どもを中心として物事を考えていけば、共通の理解が得られるはずだと納得できる機会になったことがうかがえる。

課 題 ・ 今回の講師は、知名度の高い方であり、会場の定員を超える申込みがあるかもしれないとの主催者側の判断から、学校を通じて参加者を取りまとめ、広報については、市のホームページ掲載と報道機関への情報提供にとどめた。しかしながら、開催当日は、500人定員の会場の3分の1程度に止まってしまった。市のホームページを見て、遠くは関西から聴講に来場するという学生もいたので、今後は、どんなに著名な方を招くとしても、その参加者数を侮ることなく、市の広報紙・ホームページへの掲載、報道機関への情報提供等を広く早めにしていく必要がある。

問合せ先 新潟県三条市教育委員会生涯学習課生涯学習係（TEL：0256-45-1113）

事業名 三条市通学合宿事業

趣 旨 子どもたちが本事業を通して自分や家族を見つめ直し、自立（律）心や感謝の心を養うとともに、基本的な生活習慣や協調性といった社会性を身に付ける。また、地域の大人や学生らと交流し、異世代からの学びの場とする。

実施主体 三条市公民館

参加対象 第1班：嵐北地区小学校6年生児童
第2班：下田地区小学校5・6年生児童
第3班：嵐南地区及び栄地区小学校6年生児童

参加者数 第1班：26人
第2班：19人
第3班：18人

回数 3回 **日 数** 各5日（各4泊5日）

場 所 第1班：グリーンスポーツセンター
第2班：よってげ邸
第3班：グリーンスポーツセンター

内 容

回	期 日	講師等
	第1班：平成19年10月16日（火）～20日（土）4泊5日 第2班：平成19年10月23日（火）～27日（土）4泊5日 第3班：平成19年11月13日（火）～17日（土）4泊5日	新潟経営大学学生、新潟短期大学学生、食生活改善推進委員、健康推進員ほか
1	内容・方法	平成13年度から下田地区で取り組んでいる「通学合宿事業」（主催：下田公民館）については、子どもたちが学校生活を含む日常生活の中で、家庭を離れ、同世代と集団生活を送りながら様々な体験（学習・食事・洗濯・清掃等）を自主的・主体的・共同的に行うことで、子ども自身や家庭・地域の教育力の向上につながり、よい教育効果をあげていると考えているため、この事業を三条地区、栄地区にも広げ、市全体として取り組み実施した。

成 果

- ・ 他小学校の児童の参加により、同世代と集団生活や様々な体験を通して、学校を越えて心のふれあいや交流が図られた。また、子どもたちと関わった学生ボランティアや食生活改善推進委員、健康推進員など世代を越えた新しい輪が広がった。
- ・ 子どもたちは、自立での生活、共同生活を通じて、様々な混乱や困難に直面したが、自分自身で考え行動し、友だちと協力しながら乗り越えていく中で、やり遂げることを実感するとともに、人間関係を深めることに喜びを感じることができたようだ。
- ・ 普段、家事について子どもたちは参加することが少なく、参加した児童の家庭からは、食事づくりや掃除など積極的に手伝いをしてくれるようになったという声が上がっている。

課 題

- ・ 三条地区と栄地区では初めての取り組みであり、基本的なスケジュール表により実施したが、特に食事づくりの時間が足りなかったことにより、後のスケジュールに影響がでてしまった。もっと余裕をもったスケジュールと内容を検討する必要がある。
- ・ 期間中の児童の安全を考慮し、学校への送迎はマイクロバスや市有車で行っているが、今回は4～5小学校の参加児童であったため対応できたが、今後、参加する小学校の児童が増えた場合の対応について、検討しなければならない。
- ・ 学校・地域・家庭の連携の重要性を改めて考える場とすることで実施したが、学校からは協力をいただいたものの、一部の学校の意見として、特に価値がない、学校生活に支障をきたしたなど「通学合宿事業」に反対する意見があった。

問合せ先 三条市中央公民館（担当 長橋勝芳）
TEL：0256-32-4811

事業名 平成19年度 家庭教育かるかも隊

趣 旨 加茂が大好きな子どもを育て、親子で加茂を良く知ってもらう
 実施主体 加茂市公民館家庭教育部会 かるかも隊運営委員会（市民運営委員による企画運営）
 参加対象 小学生親子が基本
 場 所 公民館ほか
 内 容

回	期日・時間	参加人数	事業名	講師等
1	7月25日（水） 9:30～13:00	30名	自然探検学び隊	下高柳トンボ園 今井 哲郎
	内容・方法	小学生とその保護者を対象に、加茂の七谷にある下高柳トンボ園で自然探検事業を実施した。そこに生息するハッチョウトンボを中心として昆虫の住める環境には、きれいな水、空気、土が必要であり、小さな生物は環境が汚染されても遠くまで逃げるができずに絶滅してしまう。その環境を守るために、昨年ブナの木を植栽した講師の今井さんのお話を聞きながら、下高柳トンボ園の自然の中で、親子でふれあいながら自然の大切さを学ぶことができた。		
2	期日・時間	参加人数	事業名	講師等
	6/12, 6/26 7/3, 8/7（火） 9:30～11:30	27人	昔話語り部養成講座（全4回）	長岡民話の会 「栃尾ろばたの会」様から数名
内容・方法	加茂に伝わる昔話の語りをこの講座で体験・習得し、語り部として活躍できる人を養成することを目的に開催した。テキストに加茂市保育会が編集した「加茂に残る昔話」を使用し、この中の1話を練習、最終回で全員が発表し合った。講座終了後はサークル「ほいねの会」をたちあげ、かるかも隊事業「加茂昔話の会」に語り部として初出演した。			
3	期日・時間	参加人数	事業名	講師等
	8月30日（木） 19:00～20:00	46人	かるかもお話し隊「加茂昔話の会」	昔話サークル「ほいね」
内容・方法	「昔話語り部養成講座」の修了生6人が、一人一話ずつ加茂の昔話を語った。一人一人が個性のある語り口調でジェスチャーを交えながらユーモアたっぷりに語った。会場となった民俗資料館の「いろりの間」では昔の雰囲気漂い、会を盛り上げた。参加した子供も大人も目を輝かせて集中してお話を聞いていた。			
4	期日・時間	参加人数	事業名	講師等
	10月26日（金） 19:00～20:30	33名	子育て講演会	本量寺保育園 園長 大森 蓉子
内容・方法	子育てで大切なこと、大事にしたいことなどについて、長年、保育されてこられた経験を基に、保育園の園長先生から、いろいろな事例をあげてお話をいただいた。その中で「絵本の読み聞かせ」の大切さについてもお話しいただき、次の事業の「絵本の読み聞かせ講座」の足掛かりをしていただいた。			
5	期日・時間	参加人数	事業名	講師等
	11/13～12/4 19:00～21:00	27人	絵本の読み聞かせ講座（全5回）	山ノ下図書館 司書 子安 洋子ほか
内容・方法	読み聞かせスキル講座を3回実施後、4回目は新潟大学教授から「生涯活動におけるボランティア活動の役割」についてのお話をいただき、最終回に読み聞かせボランティアとして活動している田上町の「田上サニープレイス」代表の古川さんからボランティア活動の体験談と読み聞かせの実演をしていただいた。修了生による「真冬のお話し会」を発表の場として計画中である。			

成 果 ・ 親子で一緒に体験することにより、新たな発見があり、親子のふれあいも深まり、よ一層加茂に愛着を持つことができる。
 課 題 ・ 学びの場を加茂に限定しているので選定場所や受入れ先に苦労している。
 問合せ先 加茂市公民館（担当 野村 直美） TEL:0256-52-1953

事業名 わくわく子育て教室 **ノーバディズ・パーフェクトセミナー**

趣 旨 子育てに不安をもち、他の人の子育てを知りたいと考える、主に乳幼児の母親を対象に、カナダ生まれの子育て・親支援学習プログラム「ノーバディズ・パーフェクト (NP)」による講座を開催する。参加者同士で日ごろ気になることや悩みなどを話し合い、子育て経験やアイデアを分かち合うなかで、自分に合った子育ての仕方を見つけていく。また、セミナーのPRを兼ねた「プレ講演会」を行うことで、広く一般の方々から子育て支援のあり方、その可能性を考えてもらう機会を提供する。

実施主体 見附市公民館「青少年・家庭教育」事業検討チーム
参加対象 「プレ講演会」：子育て奮闘中の保護者、関心のある方
「セミナー」：0歳～就学前の子どもの保護者 定員10名
参加者数 「プレ講演会」：22名、「セミナー」：8名
回数 「プレ講演会」：1回、「セミナー」：全6回
日数 「プレ講演会」：1日、「セミナー」：6日
時間 「プレ講演会」：2時間、「セミナー」：各2時間
場所 見附市中央公民館、見附市北谷公民館（「セミナー」のうち2回）
内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
—	8月18日(土) 14:00～16:00	「ノーバディズ・パーフェクト」プログラムの理解と子育てのアドバイス	椎谷照美 (新潟市にいつ子育て支援センター「育ちの森」館長、NPファシリテーター)、 吉川久美子 (「育ちの森」スタッフ、NPファシリテーター)
	内容・方法	講師による「ノーバディズ・パーフェクト」の解説・紹介、参加者の座談会、講師へのインタビュー・対談形式による子育てトーク	
1	9月14日(木) 14:00～16:00	日ごろ気になることや悩みなどを話し合い、子育て経験やアイデアを分かち合うなかで、自分に合った子育ての仕方を見つける。	吉川久美子 (同上)
	内容・方法	講師・ファシリテーターの進行により、自己紹介のほか、場の約束事、各回のテーマ設定、実際の悩みや経験談などについて、参加者同士で話し合いを行った。	
2 ～ 6	9月21日(木) 9月28日(木) 10月5日(木) 10月12日(木) 10月19日(木)	日ごろ気になることや悩みなどを話し合い、子育て経験やアイデアを分かち合うなかで、自分に合った子育ての仕方を見つける。	吉川久美子 (同上)
	内容・方法	講師・ファシリテーターの進行のもと、各回のテーマにそって、実際の悩みや経験談などについて、参加者同士で話し合いを行った。	

成 果

- 講師が活動する新潟市秋葉区（旧新津市地域）以外では初の試みとのことで、今後の取り組みを充実させていくにあたって、その意義は大きい。また、事業実施に先立ち、中央公民館広報紙『中公だより』に特集記事（講師お二人のロングインタビュー）を掲載したが、その取材などを通じて講師およびその活動拠点である「育ちの森」との関係が築けたことも成果として挙げられる。一方、参加者からも概ね好評を得ており、第2弾、続編の要望も寄せられている。

課 題

- 参加者からは好評であったものの、参加者の数そのものは少なめであった。「プレ講演会」「セミナー」ともに参加者集めに苦戦したことは、今後の大きな課題である。また、継続的な取り組みに向けて、「NP」を知ってもらうためのPR方法や参加しやすい仕掛けなど、今回以上に戦略的な事業展開をしていかなければならない。

問合せ先 見附市公民館「青少年・家庭教育」事業検討チーム
 担当：長谷川 裕恭（見附市北谷公民館 ☎0258-63-2346）

事業名 妙高フレンドキャンプ

趣 旨 学校と保護者、行政、青少年教育施設等が連携して、豊かな人間性を育み、高い志をもった人づくりを行うために、長期宿泊体験事業を実施する。
子どもたちについて、コミュニケーション能力を育成し、円滑な人間関係形成の素地を作るとともに、体験活動を通じて自然を大切にする心や社会性、たくましい精神力を育てる。

実施主体 妙高市教育委員会
独立行政法人国立青少年教育振興機構「国立妙高青少年自然の家」

参加対象 妙高市立新井南小学校、妙高小学校、妙高高原北小学校、妙高高原南小学校
杉野沢小学校

参加者数 105名

回 数 1回 **日 数** 7日

場 所 国立妙高青少年自然の家および妙高市内

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
	9月23日（日） ～29日（土）	友情・協力・挑戦・最後までやりぬく1週間 「妙高フレンドキャンプ」の開催	国立妙高青少年自然の家 専門指導員ほか
1	内容・方法	<p>平成18年度から取り組んでいる本事業について、本年度も青少年健全育成の一環として長期キャンプを以下のとおりを実施した。</p> <p>①6泊7日の長期キャンプの実施 参加した児童が所属する学校の枠を超えて班を編成し、生活を共にした。</p> <p>②豊かな体験活動推進事業との連携 学校教育においては「豊かな体験活動推進事業」（仲間と遊ぶ宿泊体験教室）の中で、国立妙高青少年自然の家や妙高市内をフィールドとして、自然、文化、歴史等の体験授業を行った。</p> <p>③チャレンジタイムの実施 最終日（土曜日）には、子どもたちが班で決めた体験活動（食事作り、秘密基地作りなど）を実施した。この活動に向けて、平日の夜は大学生スタッフによる指導も行いながら、班別に話し合いや準備などを行った。</p>	

成 果

- ・ 児童におけるフレンドキャンプの成果は以下の4点である。
 - ①本物の教材を使った体験学習による「学習意欲の向上」
 - ②様々な活動を通じて得られる「友だちとの協力」
 - ③あいさつができる、意見が言えるようになったなど「コミュニケーション能力の育成」
 - ④早寝早起きなど「生活習慣の育成」

課 題

- ・ 平成20年度は、本事業を市内全小学校（12校約300名）に拡大し実施する方向で準備を進めている。実施方法、運営体制、スタッフの確保などの課題があり、現在調整中である。

問合せ先 新潟県妙高市教育委員会 生涯学習課 笹井 電話 0255-72-1487

事業名 妙高市民の心推進大会

趣 旨 雪国で培った「ゆずりあいの心」「助け合いの心」など、妙高の地に受け継がれてきた豊かな心を継承し、広める活動を市民運動として推進する。

実施主体 妙高市・妙高市教育委員会

参加対象 市民

参加者数 約950名

回数 1回 日数 1日 時間(全体) 2時間30分

場所 妙高市文化ホール 大ホール

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
	10月27日(土) 午後6時40分 ～8時	講演会テーマ 「さわやかな風を妙高から」	講演会講師 俳優 菅原文太氏
1	内容・方法	平成18年度から取り組んでいる「妙高市民の心」の推進運動について、市民への啓発活動の一環として推進大会を開催した。 内容 ①妙高市民の心推進にかかる作文の発表および表彰 小学生 下学年 2作品 上学年 2作品 中学生 3作品 一般 1作品 ②妙高市民の心推進にかかる実践事例発表および表彰 4団体 ③講演会 テーマ 「さわやかな風を妙高から」講師 俳優 菅原文太氏 ・教育問題を中心に、便利になりすぎてしまった現在の日本の現状を話しながら「必要なもの、子どもに与えていいものを大人が検証して欲しい」「子どもにすぐ答えを求めず、見守って欲しい」などと講演。 ④来場者への啓発 (1) 作文の入賞作品、実践事例の概要について資料として配布 (2) 会場内には実践事例の概要をパネルに掲示 (3) 同時期に開催している「妙高市展」の書道部門において「妙高市民の心」を題字として募集し、作品について展示	

成 果 ・ 本事業の取り組みが2年を迎え、妙高市民の心推進応援事業所、地域における団体の活動、学校での活動を中心に、「妙高市民の心」を推進する取り組みが少しずつ広がりつつある。その成果を推進大会という形で発表することで、市民意識の啓発に成果があった。

課 題 ・ 取り組みについては少しずつ広がっているが、多くの市民にはまだ「妙高市民の心」が何かが十分に伝わっていないのが現状である。このため、今後はテーマを決めた取り組みを行うこと。実施主体となる家庭、学校、地域、事業所等が何をしていくかを明確にして取り組んでいく必要がある。

問合せ先 新潟県妙高市教育委員会 生涯学習課 笹井 電話 0255-72-1487

事業名 **生き生き通学合宿**

趣 旨 子ども達が親元から離れ、異年齢での共同生活をしながら通学することにより、家庭の大切さを認識するとともに、子ども同士の触れ合いやコミュニケーションの中から人間関係を深め、生きることの実感や喜びを感じ取ることにより、「生きる力」をつける。

実施主体 五泉市教育委員会 生涯学習課

参加対象 管内小学5・6年生

参加者数 1回目29名、2回目18人

回 数 1回目：6月10日（日）～15日（金）5泊6日
2回目：6月17日（日）～22日（金）5泊6日

場 所 五泉市チャレンジランド杉川

内 容

区分	1日目	2日目～4日目	5日目	6日目
6:00		起床・清掃	起床・清掃	起床・清掃
6:30		朝食	朝食	朝食
7:00		登校	登校	登校
16:00	集合・開校式	下校	下校	下校
17:00	夕食準備	夕食準備	夕食準備	夕食準備
18:00	夕食	夕食	夕食	夕食
19:00	学習	学習	レクと学習	閉校式
20:00	入浴・自由	入浴・自由	入浴・自由	
22:00	就寝	就寝	就寝	

*合宿開催前に、説明会を開催し参加者の質問に答えると共に、レクリエーションを導入し参加者同士の不安を取り除く。

成 果

- ・ 家族と離れ、他校の人と一緒に生活することにより。
 - 1) 他校の人たちと協力し、様々な活動を通して友達の良さを再認識したこと。
 - 2) 他人を思いやり、自分の我がまをを抑えたこと。
 - 3) 時間の大切さを再認識したこと。
- ・ 普段経験の少ない、家事等を行うことにより、家事を行う人の苦労等を理解し、家庭の大切さを認識することができた。
- ・ 子ども同士の触れ合いやコミュニケーションの中から人間関係を深め、生きることの実感や喜びを感じ取ることができた。
- ・ 家族にとっても、子どもを見直すいい機会になった。

課 題

- ・ ゆとりをもったプログラムを立案し、子ども達が自由に行動する中で、迷ったり・困ったりして、自分で判断したりする時間を確保すること。
- ・ 1回当たりの定員を30人以下にして、食事準備の時間短縮、1班当たりの食事準備が複数回できるよう確保すること。

問合せ先 五泉市教育委員会 生涯学習課

事業名 子育て講座

趣 旨 子育て中の母親に少しでもストレスを解消してもらい、明るく楽しい子育てについて語り合い学ぶ。

実施主体 聖籠町社会教育課

参加対象 就学前の子育て中の母親

参加者数 延べ 20名

回 数 3回 日 数 3日 時 間 7時間

場 所 聖籠町結い^ゆハート聖籠

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	平成19年 11月20日(火) 10時～12時	心が軽くなるコミュニケーション講座	心理カウンセラー 福田 貴美子
	内容・方法	○「おしゃれは言葉から」の素敵なテーマで始まり、2人1組になりお互い自己紹介をして、コミュニケーションを図りました。言葉のむずかしさ、人との関わり、人の大事さを改めて知らされました。	
2	平成19年 11月28日(水) 10時～12時	カラーセラピー プチ体験(自分と話そう)	カラーセラピスト 林 尚子
	内容・方法	○104種類のピュアオイル(化粧オイル)の中から1色を選び、自分自身をみつめなおしました。選んだ色で人への見方も変わり、女性は誰もが興味津津の講座で大変好評でした。	
3	平成19年 12月4日(火) 10時～1時	かんたんおやつ作り	食生活アドバイザー 渡辺 典子
	内容・方法	○5班に分かれて簡単なおやつ作り お子さんと一緒に出来上がったおやつを食べました。日頃おやつを制限されているお子さんですが、この時ばかりと母親の目を気にしながらもうれしそうに食べていました。	

成 果 ・ 保育ルーム付きの講座なので、毎日子育てにおわれている方も安心して講座に集中することができ、自分自身の気持ちが楽になった等、たくさんの方からは是非今後も継続してやってほしいとのたくさんの意見が出されました。

課 題 ・ 来年度も引き続き、連続講座や子育て講座を開催していきたいと考えています。

問合せ先 北蒲原郡聖籠町社会教育課 社会教育係 肥田野 弘美 TEL: 0254-27-2121

事業名 家庭教育

趣 旨 家庭教育について考え、学んでみよう。

実施主体 津南町教育委員会 生涯学習班

参加対象 小学校中学年・高学年・中学生の子をもつ親・保護者

参加者数 15名

回 数 4回 日 数 4日 時 間 2時間30分

場 所 津南町文化センター

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	11月14日（水） 19:00～21:30	家庭教育に必要なものは何ですか？	社会教育主事 八重沢良成
	内容 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育の中での親の役割（家庭と親の在り方） ・基本的な生活習慣 	
2	11月21日（水） 19:00～21:30	お子さんの心と体の変化気づいていますか？	津南病院小児科医師 伊藤文之
	内容 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期の子どもの特徴 ・子どもの成長に応じた接し方 ・家庭での性教育について 	
3	11月28日（水） 19:00～21:30	いじめっ子・いじめられっ子になったら、どうしますか？	十日町中学校 養護教諭 滝沢令子
	内容 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・見逃さないで！子どものSOS!! ・不登校やいじめに関与することになった場合の対応 	
4	12月5日（水） 19:00～21:30	まとめてみよう今までのことを……。	社会教育主事 八重沢良成
	内容 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚に必要なことを含めてこの講座の集大成の時間 	

成 果

- ・ 数10年ぶりに家庭教育講座（思春期講座）を開講。参加者からの声として「こういう講座を待っていた」等あり、家庭教育講座の必要性を実感できた。
- ・ 毎回フリートークの時間に参加者同士が情報交換を行ったり、知り合いになったりしたので、この講座の中で仲間作りという効果があった。

課 題

- ・ 参加者のほとんどが子どもの不登校等の問題を抱えている状況。今回は特に、思春期講座の内容だったのでそう思ったと思うが、いじめ、不登校だけの講座も必要なのか、思考を要する。
- ・ 今回母親の参加がほとんどだったので、次回は父親や祖父母も参加できるような講座内容を検討したい。
- ・ 今後は思春期講座だけではなく、「小1・中1の子を持つ親の学級」等子の成長の節目にあたる時期の家庭教育講座も考えていかなければならないと考えている。

問合せ先 津南町教育委員会 生涯学習班（島田 陽） TEL:025-765-3134

事業名 あさひウィークエンドスクール・キッズクッキング

趣 旨 完全学校週5日制のねらいにある、『様々な活動の機会を子どもたちに提供し自ら学び自らを考える力や生きる力をはぐくむこと』をねらいとして開催する。またこの度は学習型と位置づけ、基本となる食材や器具を持参していただく。但し参加費は無料。

実施主体 朝日村教育委員会・朝日村公民館

参加対象 村内の小学生とその保護者(原則保護者同伴)

参加者数 先着12組

回数 2回 **日数** 1日 **時間** 2時間

場所 朝日村総合文化会館・調理室

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	1月22日(土) (30分前受付) 9:30~11:30	フライパンでかんたんクレープ作り	教育課職員
	内容・方法	○告知 チラシに、予め必要な道具・基本となる材料等を記載し、申込みを受ける。 ○当日、実習にはいるまで 受付の後、身支度が整ったら、教室開催の経緯や目的を簡単に説明し、早速実習に入る。 ○実演 講師卓に集まっていただき、レシピを配布し一通り実演に入る。 ○実習 実際参加者に、生地を焼き、クリームを立て、クレープを作っていただく(正味1時間)。 ○反省会 参加者全員調理室中央のテーブルに集まり、自作品を堪能する。焼き加減や、トッピングの種類・分量などを分析した。	

成 果 ・ 今回の料理教室は、参加者が自ら学ぶ意識をたかめていただこうと、使用する機器(ハンドミキサー)や、基本となる食材(小麦粉・卵・生クリーム原料)等を持参していただいた。またクレープを、どの家庭にもあるフライパンで作る簡単さを用いたことにより、参加者に柔軟さが増し、創作意欲がおこり、本来の目的である「準備から後かたづけまですべて1人でやること」に結びついたことと思います。

メニューも定番のバナナやチョコといった甘味系に加え、レタス+ツナといった総菜系を取り入れたことが好評であった。

課 題 ・ 教室に取り入れるメニューや開催時期、告知チラシデザインからタイミングに至るまで、教室会場のキャパシティー等も考慮し、包括的な企画が必要である。

リピーターの心を持っていただくために、簡単なメニューがよいのか、手の込んだ魅力的な企画なのかを検討する必要がある。

問合せ先 朝日村教育委員会 教育課(朝日村総合文化会館内) 中山晴剛 TEL0254-72-6700